

# 一般質問

六月十六日（水）・十七日（木）の二日間にわたり、十九人の議員が一般質問を行い、市政全般にわたる問題について、市当局の見解を求めました。

## 質問者

中相周	田沢東	米崇照	蔵文二	(日本共産党)
周笠周	井藤雅	秋夫彦	(桐翔会)	
近荒吉	藤健恵	司彦	(公明党)	
津布久	木野剛	司八人	(新声クラブ)	
細谷昌	博昌	弘始	(クラブ21)	
河原井	清秀	江宣	(新声クラブ)	
森下滝	芳正	朗子	(クラブ21)	
小寺岡	部純	秀一郎	(公明党)	
石岡佐	部信	一雄	(新声クラブ)	
西	藤貞	秀	(日本共産党)	
	牧		(新声クラブ)	

## 財政

**質問** 地方交付税の抑制、国庫補助負担の削減と地方への税源移譲を行う「三位一体改革」の地方財政への影響はどうか。

**答弁** 地方交付税については、地方公共団体の安定的な財政運営に必要な財源の総額を確保するとされている。また、財政力の弱い団体においては、歳出の見直し等を行う一方、地方交付税の算定等を通じて適切に対応するとされている。国庫補助負担金は、削減され

(市民文化会館)



る分に見合う分、税源移譲に結びつく改革が行われ、所得税から、個人住民税へ移譲するということである。

## 生活保護

**質問** 生活保護世帯と生活の実態はどうか。扶助費は物価に対してどうか。

**答弁** 生活保護は、最低限度の生活を保障するとともに、その自立を助長する制度である。桐生市の平成十六年三月末現在の受給者は、五百七十七世帯、七百二十一人であり、世帯で十二パーセント、人数で七パーセント増加している。また、扶助費は、景気に合わせて物価スライド制により、現在は引き下げられている。

## 緊急時用イエローカード

**質問** 高齢者および、幼児・児童に対して緊急時用「イエローカード」の活用は有効と考えられるが、どうか。

**答弁** 事故や急病などの際に身元や血液型、持病等を記入したイエローカードの携帯は、第三者が適切な援助ができるという点で有用性を感じるが、プライバシーに関わる事が記入される点が懸念される。現在、県内における実施例はないが、今後研究検討していきたい。

## 環境整備施策

**質問** 桐生川・渡良瀬川環境整備と市民ボランティアについて、どう考えるか。

**答弁** 「桐生川の清流を守る条例」の制定など自然環境の保全に努めており環境ボランティアの取組みは重要と考えている。東中学校側の河川整備については、環境学習の場とするための要望にこたえ、国より整備構想づくりが予定されており、今後の進展を見ながら協力体制を取りたい。また

小梅琴平公園、松原橋公園についても、できる範囲の市民の協力をいたいただく中で適正な維持管理に努めたい。

(桐生川)



## コンピューター学習

**質問** 学校ではコンピューターを活用した学習をしているのか。(コンピューター教室)



ているが、電子メール等による誹謗・中傷の被害があるのか。また、その取り組みについては、どのようにしているのか。

**答弁** 児童・生徒が被害を受けた報告は受けていない。インターネットガイドラインにより、他人の誹謗・中傷をしないことや情報発信者、受信者としての自覚と責任を正しく持てるように、児童・生徒の発達に応じた指導を行っている。

## マナー啓発

**質問** 犬の飼い主へのマ

ナー啓発についてどのような取り組みをしているのか。また、マナーアップ講習を受けたという飼い主の声があるがどうすればよいのか。

**答弁** 犬の苦情の原因は、飼い主のモラルによるところではあるが、市の広報紙による啓発、看板の設置、犬の健康手帳の交付などにより、意識の高揚に努めている。また、「犬のしつけ方教室」を桐生保健福祉事務所で年一回程度実施しており、広域圏の広報や新聞により受講者を募っている。

## 人事管理

**質問** 「人事管理における基本的な理念」についてどのように考えているのか。

**答弁** 人事管理は中立公正の確保が基本的な理念であり、このことにより公務の民主的、かつ能率的な運営を保障するものとなる。そして人事異動にあたっては、適材適所、業務の固定化および士気の低下を防ぐ等を目的に行っている。

## 地場産業振興センター

**質問** 桐生地域地場産業



振興センターの貸館について、産業振興の観点からも、貸館業務を復活させるべきと考えるがどうか。

**答弁** 桐生地域地場産業振興センターは、地場産業の振興、育成、発展を目的に、地域経済の基盤強化を図るため、各企業の自助努力を積極的に支援するため、の公の施設であるとの基本に立ち、個人の営業を目的にした事業への制限を行っている。なお、展示や即売会等での利用については、商工会議所、織物会館等の利用を紹介している。また、これ以外の利用については、今年度から可能な限り、民間の事業所への貸し出しを行っている。

## 住宅施策

**質問** 三世代住宅建設促進資金融資の廃止された理由とその復活について、どう考えているのか。

**答弁** 三世代住宅資金については、昭和六十三年より始めた制度だったが、利用が大幅に減少し、今後とも増加が見込めないため、平成九年に廃止した。現在、制度の復活は考えていないが、民間の住宅資金等や、市の勤労者住宅資金制度の利用をお願いしたいと考えている。

## わたらせ渓谷鐵道

**質問** わたらせ渓谷鐵道について、存続させるのか(わたらせ渓谷鐵道)



どうか、市としてどう位置づけているのか。

**答弁** 平成十五年十二月に実施した沿線住民アンケートによると、桐生市と大間々町では廃止しても「困らない」が七割という結果に対し、黒保根村と勢多郡東村、栃木県足尾町では「困る」が七割という結果であった。今後、黒保根村との合併を踏まえ、沿線住民の利用の掘り起こしや、乗車人員の増加策を模索しながら、「わたらせ渓谷鐵道再生等検討協議会」で最善の方策を進めて行きたい。

## 公共事業

**質問** 財政状況が厳しく、広域圏事業の見直し案も示されている中で、公共事業の指名を市内業者に限定するよう、業者選定方法の見直しを行ってはどうか。下請け業者についても市内業者に限定できないか。

**答弁** 市内業者が広域圏町村で指名されている実態もあるが、国庫補助金の減額に伴う事業量全体の減少、景気の影響、合併の動向などの観点から入札制度については、入札制度検討委員

## 市営住宅

**質問** 広沢町一丁目団地内の環境整備をどのように考えているのか。

**答弁** 老朽閉鎖住宅や周辺における樹木などの繁茂により環境の悪化が進んでいる。このような状況は環

(広沢町一丁目団地)



境衛生や防犯上も好ましくないことから、緊急度の高いものから計画的に改善していきたいと考えている。

## 新桐生駅売店

**質問** 新桐生駅舎内売店「ほほえみ」の利用状況はどうか。（ほほえみ）



うか。また、利用者からどのような要望があるのか。

**答弁** 開設して二か月の間、当初予想を上回る利用がある。酒、タバコの販売や営業時間の延長などの要望があるが、限られた売場面積の中、地元商品を中心にした品ぞろえを行っている。不慣れな部分も見られるようだが、利用者に配慮した積極的な運営を行っていると考えている。

## ユニバーサルデザイン

**質問** ユニバーサルデザインの基本理念をどのよう

にとらえ、どのような形で反映し、実践していくのか。

**答弁** 「できるだけ多くの人が利用可能であるように製品・建物・空間をデザインすること」という一般的な解釈とともに、障壁の除去というバリアフリーの思想を発展的に移行した先にユニバーサルデザインがあると考えている。その実践には行政・事業者・研究者・生活者などさまざまな分野の人々の参画・連携・継続の仕組みづくりが大切であり、市民への周知は大変重要であると考えている。

## 市長の失政と疑惑

**質問** 市長は自分の失政に責任を持たない。合併では、広域圏でまとめられず、太田市との中核市構想も失敗し、飛び地合併に至っている。競艇事業の諸問題についてどうするのか。また、職員の不祥事が続いており、市長自らが疑惑をかけられていることに、どう市民に説明するのか。

**答弁** 合併については、広域圏町村に任意合併協議会設立の提案を行ったが合意に至らず、それぞれの考



（市役所）

え方を尊重して合併は自然体が一番、住民の意向が一番との認識があった。また、太田市との合併協議につい

ては、力強い都市を目指したが、別々の法定協議会を設立となった。一市二村の合併については、二村に感謝しながらより良いまちづくりを目指したい。競艇については、熟慮の結果現状に至った。補償金問題は、社会通念や契約に基づき、支払うべきものは支払う。職員の不祥事問題については、適切な再発防止策を講じ、綱紀粛正保持に取り組み。入札については、検討委員会を設置し、より透明性公平性の高い制度の確立を目指して取り組んでいる。

## 学校統廃合と地域活力

**質問** 子供が学んで成長する場合は、学校だけでなく地域でも育つ。安易に学校統廃合を進めるのではなく、地域組織の活性化を考えるべきではないか。

**答弁** 学校統廃合については、検討委員会から報告書が提出され、今後は識者の意見を伺うことになっている。なお、少子化、価値観の多様化、学校週五日制など子供を取り巻く環境が変化し、地域における健全育成を図ることが一層望ま



れる中、子供育成会では、臨海子供会やリーダー養成等の活動や運営を行っている。今後も、子供育成会や（市内の学校）

## 川内町内の下水道整備

**質問** 川内町二丁目鷹ノ巣団地内の下水道整備の見通しはどうか。

**答弁** 鷹ノ巣団地内の下水道の進捗状況は、整備面積約六・三ヘクタール、整備戸数百五十八戸である。整備について、毎年年度計画を立て推進を図っており、財政状況の問題はあるが、今後とも努力していきたい。

## 公衆便所

**質問** 公衆便所の現状は。また、機能性の高い福祉便所の設置は考えているか。

**答弁** 公衆便所は市内に六十五か所あり、身体障害者用は十四か所、ベビーベツト設置は八か所ある。そのうち、清掃管理事務所管理の三十二か所では、洋式は十四ブース、和式は五十ブースである。維持管理については、使用頻度の高い便所から清掃回数を多くしているが、施設を壊されたりするので、貼り紙や巡

## 観光と地域振興

**質問** 観光への取り組みと、地域振興も踏まえて、昔のような水路の復活は考えているか。

**答弁** 桐生市は、恵まれた自然や伝統文化、近代化遺産など多くの観光資源を有しており、ホームページや観光パンフレット等を活用して情報発信し、観光客の誘致や地域振興に努めて



いる。なお、水路の復活については、観光資源として活用できるものと考えられるが、今後の課題としたい。（量産市）



## リバース・モーゲージ

**質問** 高齢者が安心して生活するため、金融機関や自治体から融資を受けられる、リバース・モーゲージ制度の導入を考えているか。

**答弁** この制度は、高齢者自身の資産を活用して融資を受けることで、経済的不安の解消の有効な手段である。しかし、不動産を手放すことへの抵抗感等があり、県内では導入した自治体はないが、今後の経済基盤を確保しながらわが家で暮らしたいと願う高齢者の

希望にこたえる有効な手段であり、研究していきたい。

## まちづくり

**質問** 地元のまちづくりへの考えを無視し、利益優先の経営姿勢を持った企業の進出の可能性がある中、まちづくりのルールづくりについてどう考えているか。

**答弁** 全国で、画一的なまちづくりから地域性を活かしたまちづくりの取り組みが展開されており、市町村が独自に開発規制の要綱や条例を制定する事例が見られる。今後は、地域



(本町通り)

性を活かした土地利用の誘導や規制なども必要と考えており、まちづくりを推進する中で研究していきたい。

## 景観整備

**質問** 東村に通じる林道三境線沿いに、風光明媚な場所があるが、休憩場所として整備する考えはあるか。

**答弁** 東村に通じる林道三境線沿いに、風光明媚な場所があるが、休憩場所として整備する考えはあるか。また、市内を一望できる場所の整備についてはどうか。

**答弁** ご指摘の場所は、林道三境線開設工事にあたり、発生する土砂の残土処理地として設置された。整備についても県と協議した経緯があるが、現在も残土処理地として活用中で、展望所とするには安全対策を講じる必要がある、今後の



(残土処理地)

課題としたい。なお、市内を一望できる場所の整備については、菱町四丁目金葛市有林を整備しており、完

## 広域圏事業の方向性

**質問** 市から提案された広域圏事業の方向性について、提示された資料の表現に違和感を覚えるが、広域圏町村の反応はどうか。

**答弁** 広域圏事業について、担当課長会議などでは、廃止事業は理解したように思うが、消防や斎場を桐生市に戻すことについては、これからの理事者会議にゆだねることになっている。

## 行政サービスの向上

**質問** 県で実施している「サービス向上宣言」と同様な施策は考えているか。また、サービス向上のため、アンケートの実施はどうか。

**答弁** 全庁的に、行政サービスの向上を目指して積極的に取り組んでいるが、まだ努力が足りないだろうと考えている。「サービス向上宣言」は、さらなるサービスの向上と信頼関係が一層図れるものと期待でき、県の事例などを参考に検討していきたい。また、アン

## 卸売市場の統合

**質問** 両毛地域卸売市場統合準備会議に至った経緯と、今後の見通しはどうか。

**答弁** 両毛地域には現在五市場あり、いずれもピーク時から見ると売上高は減少傾向で、施設の老朽化も見られ、合理化活性化を図るため市場の広域合併が両毛五市市長会で提案され、協議を行っている。見通し



(公設卸売市場)

については、多くの課題があるが、市民の食生活安定のため、関係者との対話を進める中で考えていきたい。

## 教室の扇風機設置

**質問** 今年度から小・中学校の普通教室に扇風機の

(教室内の扇風機)



設置事業が始まったが、設置効果を比較検討し、声も聞くべきと考えるがどうか。

**答弁** 普通教室の扇風機設置は、今年度三校に設置した。効果の確認について、設置前後の教室内の温度差や、教師や児童の反応を調査するため、三校には調査依頼をしているので、結果がまとまり次第報告したい。

## 温暖化対策

**質問** 温暖化対策の市の取り組みと計画は。また、温暖化防止のために、桐生の技術が役立てられないか。

**答弁** 温暖化対策として、「桐生市地球温暖化防止対策実行計画」の策定に向けて取り組んでいる。市が自ら対策を講じることにより、課題や効果などについて、事業者や市民に対する情報提供や助言を行うなど意識啓発に努めている。また、桐生市の産学官連携により開発された「桐生グリーンマット」は、災害による崩壊法面復旧など国土交通省の新技术・新建設材料と認められており、植生回復などにも活用できる視点で、さらに研究を深めている。

## し尿処理施設

**質問** 境野し尿処理施設については、地元住民が広（し尿処理施設）



域行政のさらなる推進と融和を考える中で、現在地での改築となつたわけだが、その現況はどうか。

**答弁** し尿処理施設は、平成十四年四月供用開始となり、現在順調に稼働をしている。なお、搬入量については、下水道の普及率等に伴い、減少傾向にあるが、今後も地元住民のご理解とご協力を得ながら、万全な運転管理に努めていきたい。

## 市内企業と労働人口

**質問** 市内企業の減少で、労働力人口の市外流出の状

況はどうなのか。また、税収面での影響はどうか。

**答弁** 市内企業の減少について、本市では工業用地の確保が大変難しい状況であり、最近でも大手の事業所が、それぞれ市外に工業用地を求め、移転している状況であるが、産学官連携による新製品開発に成功した企業等もあり、今後この経済効果は随所に現れるものと考えている。また、税収面では、企業の廃業、倒産、市外流出などによる企業の減少は、税収面にも大きく影響するものと考えている。

## 「DV」被害者への救済

**質問** ドメスティック・バイオレンス被害者への救済の現況と取り組みは。

**答弁** ドメスティック・バイオレンスについては、中々表面に出てこないという特徴があり、長期間我慢したのが、どうにもならない状況になって表面にでてくるのが現状である。平成十五年度市で扱ったのは十一件だったが、実際はもっと多いと考えられるので、関係機関と連携を取りながら情報収集に努め、地道に

## 戸籍

**質問** 戸籍は変更されないことで、歴史的記録が保（市民課）



## 財政状況

**質問** 桐生市を一つの大



（総合福祉健康相談係）

支援・指導を続けたい。

きな家庭と考えた場合、その家計の収入支出はどうなっているのか。

**答弁** 市の歳入面では、市税などの自主財源が減少し、地方交付税や補助金などの依存財源の割合が増えているのが現状であり、産学官連携強化による地域産業の活性化を図り、市税増収となるような施策を講じている。また、歳出面では、市税収入が減少する中で、義務的経費が増加しており、事務事業の効率化、人件費の削減などに努めていきたい。

## 群馬大学の寄付講座

**質問** 大学の既設の講座のみでは十分対応できない（工学部同窓会記念館）



専門分野の講座について、教育・研究の多様化と活性化を目的に、民間等からの寄付金を基金に設置される寄付講座、教育プログラムというものは、群馬大学では開設されているのか。

**答弁** 群馬大学の寄付講座については、現在、高崎に営業所をもつ半導体メーカーが今年六月より、また、医学部においても、統合和漢診療学のメーカーが講座を開設したとのことである。

## 学校の役割と児童の安全

**質問** 大阪府池田小学校

の事件以来、学校の安全管理が厳しくなり、本来学校が持つ役割機能が変化してきているようだがどうか。

**答弁** 学校の基本的な役割は、児童生徒の発育段階に応じた知・徳・体の調和のとれた教育を行うとともに、生涯学習の理念の実現に寄与することであると考える。なお、学校生活における安全確保および安全管理についても、学校の役割が達成できるように、地域の関係施設や関係団体と連携・協力して、推進に努めたい。

## 行財政改革

**質問** 「取扱い注意」で

存在していると考えられるか。また、戸籍電算化による文字訂正はどうだったか。

**答弁** 戸籍の訂正は、届出や事務処理上の過誤などによって錯誤など生じた場合、事実と合致させる。また、遺漏事項の記載について、所定の手続きにより訂正することも可能である。

なお、戸籍の電算化により、文字の修正が必要な場合は、該当者に通知し、広報きりゅうにも掲載を行った。

「桐生市行財政改革方針（案）」の諮問書が議員に配付されたが、これでガラス張りと言えるのか。また、行財政改革推進委員会は、公開なのか非公開なのか。

**答弁** 「行革方針（案）」を「取扱い注意」としたのは、諮問は現時点での行政試案であり、委員の自由な発言と活発な意見交換により最終的な方針となっていくものと考えたからである。行財政改革推進委員会は、今後、委員の意見を集約しながら公開・非公開を示したい。